

B-165 衣服形態現象の抑制と解放(2)

昭和女大家政 村井万子

目的 衣服形態の抑制の分類の第一として、形態的抑制をあげた。それには

1. 人体そのものへの締めつけ
2. 人体の動作または行動への抑制

が行われる。さらに2には a. 服の構成そのものが動作に対して制約となる場合と、その動作を制約するために服の構成が考慮される場合があると思われる。

特に中世以降においては、優稚さ、つつましさ、憂愁の美などが女性美の重要なポイントになるとともに、より強く抑制が行われるようになっていった。そしてそれは固定化し形式化していった。その過程と、方法と、部位などについて考察した。

方法 服装の立体的考察をすすめるために資料によって復元を試み、実物の $\frac{1}{2}$ の衣裳作製を行なった。

結果 Corsetの構成について重要なのは、そのシルエットを固定する材料である。主として使用される鯨のひばりや落し金属板は、熱や力によって非常に細いウエストを作るに必要にして十分なカーブが得られた。表地は美しい絹織物やレースが多いが、内側に使われる布には注意がほらわれている。Hoopの構成については、跨展を目的とすることから、装飾の加えられた衣裳の重みを保持するために、素材の変化がさまざまに見られた。